

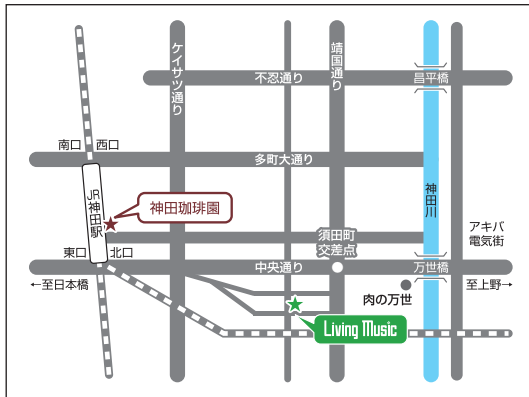
いい音  
いい場所  
いいお店  
「Living Music」

住所：東京都千代田区神田須田町1-22  
 電話番号：03(5264)4555(代表)  
 営業時間：11時～20時  
 定休日：毎週 日曜・月曜日

「10万円コンボ」と「CEC製品のすべて」が  
 聴けるオーディオ・セレクトショップ

2005年9月にオープンしたばかりだが、「Living Music」。代表の広瀬勝治さんはオーディオ業界に携わること33年、あるオーディオ雑誌社の編集から始まり、現在はビュアオーディオ専門の広告代理店を経営している。聞きなれない「オーディオ・セレクトショップ」なるものを立ち上げるきっかけとなったのは、この2年間ほどの間にあるメーカーの営業顧問として、全国のオーディオ専門店を北は北海道から南は鹿児島まで、約180店ほどを廻ったことだという。

「大多数のお店が一握りのお客様を相手に何十万円、何百万円、へたをすると何千万円もするオーディオ&AV機器をメインに販売されています。私は昔から『オーディオ機器は音楽を聴く道具にしか過ぎない。大切なことは多くの人が生活の潤いとして音楽を聴き、楽しむことだ』と考えてきました。そこでリーズナブルな価格ながら音の良い、厳選した商品構成のセレクトショップ



JR秋葉原とJR神田駅のほぼ中間点にある「オーディオ・セレクトショップ Living Music」。そのスペースは約20畳程度で、CECの製品をメインとしながら「リーズナブルで音が良い」と考えるものを厳選し、取り扱っている(窓ガラスはフォックの制振材で対策済み!)



ップを立ち上げて、より多くの人たちに『音楽のある生活』を楽しんでいただこうと思っただけです」

最後には人の良さそうな笑顔で、こう説明された。

そして約1年ほど前から、広瀬さんがまさに条件に当てはまると考えるCEC製品などを中心に、「何とかCD+AMP+SP+10万円のコンボ、レコードプレーヤー+AMP+SP+10万円のシステムが造れないものかと模索してきた」そうだ。

しかし、はたして「10万円コンボ」で満足な音楽生活が送れるものなのだろうか？ 素朴な疑問をぶつけてみた。

「そうですね。30年前ならいざ知らず、現在では大したシステムにはならないと馬鹿にされるかもしれません。でも世の中結構広いもので、問題意識を持ってこまめに探してみますと意外や意外、驚くほど安価で音の良い製品に巡り会うものです。CEC製品の他にも、サウンド・ウォーリアのCDプレーヤー付の真空管アンプやシャッツグレイバーのアンプなどは、安価ながら度肝を抜かれるくらい素晴らしい音で音楽を鳴らしてくれますよ」

と言って広瀬さんは何やらお弁当箱ほどのアンプを取り出し、筆者の手のひらに載せた。とにかく軽い、小さい、薄いのである。シャッツグレイバーのアンプDRAMS1です。よと広瀬さんは言うと、筆者のあつげに取られた顔を尻目にアンプを無造作に床に置き、メーター200円〜300円の



TRNの真空管アンプも取り扱い製品。2段目が“Super12”で、最下段がMelodyの“SP3”。いずれもプリメインアンプ。



こちらは「25万円コンボ」の一群。プレーヤーにCECの“CD3300”、プリメインアンプに同じくCECの“AMP3300”、そしてスピーカーにウィーンアコースティックの“S-1G”が組み合わされている



同店が推奨する「10万円コンボ」の構成要員。オーディオプロのスピーカー“ALLROOM SAT”とサウンド・ウォーリアのCD付真空管プリメインアンプ“SW-C20B”（上写真最上段）を筆頭に、パイオニアのユニバーサルプレーヤー“DV-585A”（同2段目）、シャッツグレイバーのプリメインアンプ“DRA-MS1”（同3段目）、CECのヘッドフォンアンプ“HD53R”。そしてアナログプレーヤーとしてはBSRの“375改”（¥25,000）が待機している（左写真）



リファレンス的に使用されることも多い、CECの最高峰ベルトドライブトランスポート“TL0X”



同店におけるメインシステム（右写真）。スピーカーにウィーンアコースティックの“T-3G”と“T-2G”。CDプレーヤーにCECの“TL51X”と“CD5300”、プリメインアンプにも同じくCECの“AMP71”と“AMP5300”という布陣。そしてアナログプレーヤーには英国ミッチェル・エンジニアリングの最高峰“GyroDec”（上写真）を使用。フォノイコライザーとしてCECの“PH53”を併用



スピーカーケーブルでウィーンアコースティックのT-3Gにつなげ、CDを鳴らした。曲はルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンの交響曲第5番「運命」、フルトヴェングラーの戦後復帰コンサートである。

うーむ、こりやたまげた。一試聴者としてでしゃばってしまうが、演奏者の息遣い、情念、胸を打つ魂の叫びまでが痛いほどに伝わってくる。従来のオーディオ機器では聴いたことのない音がそこにあるのだ。あくまでも温かく、しかしヌルくなく、ほどよい緊張感を漂わせて音楽が奏でられる。聴き終わったときには思わず感動のあまり拍手をしてしまった。しかも値段を聞いて二度びっくり。なんとたったの36000円だというのだ！ そのアンプが、CECのベルトドライブCDトランスポートTLOX、D/AコンバーターのDA53、そしてT-3Gを相手に堂々と渡り合っている。何十万円もするアンプでもはたしてここまで鳴るのだろうか。強烈なカルチャーショックだった。

現在、六本木工学研究所に安価で音の良いスピーカーシステムをOEM生産してもらっており、11月の半ばには完成、納品予定だそうだ。

「これを持って『10万円コンポ』を何種類か用意し、販売を本格化させます」と広瀬さん。

何やら出来立てホヤホヤのお店にしては「Living Music」、奥が深そうだ。

取材・文・写真 龍 悟(りゅう・せつ)(る)



JR 神田駅北口にある「神田珈琲園」では毎月第4土曜日、18時～20時に「Living Music」主催のレコードコンサートが開催される

※「神田珈琲園」(TEL: 03-3252-7608)  
年中無休  
平日: 7時～24時 / 土日祭日: 9時～18時



木曾興業の「フォック」、ナノテックシステムズ、サウンドアートなどのアクセサリも充実した品揃え



オーディオ FSK の電源ボックス "MG-1" も取り扱い中



「Living Music」はオフィスビルの4F。予約制で美味しいコーヒーを飲みながら、ゆったりと音楽を楽しむことが出来る



六本木工学研究所製のスピーカー試作機。この雑誌が発売される頃には「10万円コンポ」の中核を担う存在としてデビューしているはずだ



同店では「10万円コンポ」にコムテックの15インチ液晶モニター「CS-150S」(¥50,000)を組み合わせた「あっと! ホームシアター?」も推奨している。

※DVDはパイオニア「DV-585A」を使用して再生。写真中のサウンド・ウォーリア「SW-C20B」にDVD再生機能はありません

